

平成23年8月の解説（週間天気予報）

【8の天候状況】

太平洋高気圧の勢力の変動が大きく、各地域とも暑い時期と涼しい時期がありました。北・東日本では、上旬中頃から中旬中頃にかけては太平洋高気圧に覆われたため晴れて気温が高く、多くの地点で猛暑日となった一方、上旬はじめはオホーツク海高気圧の影響で低温になったほか、中旬終わりから下旬にかけては寒気や本州付近に停滞した前線の影響で高温の日はほとんどなく、気温の変動が大きくなりました。前線や湿った気流の影響により、西日本の日本海側では、月の後半に大雨の降った所があったため月降水量が多かったほか、竜巻などの突風が発生した所もありました。西日本の太平洋側と東日本でも、下旬は前線や湿った気流の影響で大気の状態が不安定になることが多く、各地で大雨が降りました。また、沖縄・奄美の一部では、上旬中頃に台風第9号が沖縄本島のすぐ西をゆっくり北西進したため大雨となりました。

月平均気温は、気温の変動が大きくなりましたが、北日本で高く、東・西日本、沖縄・奄美では平年並でした。月降水量は、西日本の日本海側で多く、北日本の日本海側、東日本、西日本の太平洋側、沖縄・奄美では平年並でしたが、北日本の太平洋側では少なくなりました。月間日照時間は、北日本の日本海側で多く、北日本の太平洋側、東日本、西日本の太平洋側、沖縄・奄美では平年並でしたが、西日本の日本海側では少なくなりました。

【8月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は、全国平均では例年値^(注)より4ポイント低い62%でした。地方毎の適中率では沖縄地方で10ポイント高くなりましたが、東海地方、近畿地方、中国地方及び九州北部地方では8～11ポイント低くなりました。

最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、例年値程度の地方が多く、九州南部地方では例年値より0.3℃小さくなり、全国平均では2.4℃になりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、全国的に例年値程度で、全国平均では例年値と同じ1.6℃になりました。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【10月の週間天気予報の利用にあたって】

「秋の日はつるべ落とし」といいますが、日照時間が次第に少なくなつて、秋から冬にかけて気温も急速に下がっていきます。10月にはさわやかな秋晴れとなる日も多くレジャーなどで山に出かける機会も増えますが、北日本や本州の標高の高い山では雪が降ることもあります。行楽などで標高の高い山へ行く際には、前もって週間天気予報において山で雪が降るような予報が出ていないか確認するとともに気温の予想も参照し、降雪や気温低下による寒さに対する準備をしておくことが必要です。